

検察側の罪人 (2018)

メディア 映画

ジャンル ミステリー サスペンス

製作国 日本

色彩 Color

時間 123分

初公開日 2018/08/24

公開情報 東宝

映倫 G

【キャッチコピー】

一線を、越える。

【解説】

雫井脩介の同名ベストセラーを「無限の住人」の木村拓哉と「ラストレシピ ～麒麟の舌の記憶～」の二宮和也の主演で映画化したミステリー・サスペンス。ひとつの殺人事件を巡り、容疑者として浮上した男を自らの正義感からあらゆる手段で追い詰めていくエリート検事と、そんな上司の捜査方針に次第に疑問を抱き始める後輩検事の対立の行方をスリリングに描き出す。共演は吉高由里子、平岳大、大倉孝二、松重豊、山崎努。監督は「日本のいちばん長い日」「関ヶ原」の原田真人。

東京地検刑事部のエリート検事・最上のもとに、彼に心酔する若手検事・沖野が配属されてくる。さっそく2人で都内で発生した老夫婦殺人事件を担当することに。すると最上は、被疑者の一人である松倉という男に激しく反応する。松倉はすでに時効を迎えている未解決殺人事件の重要参考人だった。最上は今回の事件も松倉の犯行と確信し、なんとしても松倉を有罪にしなければならないとの強い思いに囚われていく。そんな最上の意を汲み、松倉から自白を引き出すべく取り調べに力が入る沖野だったが…。

【クレジット】

監督 原田真人 Harada Masato

製作 市川南

企画・プロデュース 臼井央

エグゼクティブプロデューサー 山内章弘

プロデューサー 佐藤善宏

西野智也

協力プロデューサー 鍋島壽夫

ラインプロデューサー 芳川透

共同製作 藤島ジュリーK.

原作 雫井脩介

『検察側の罪人』(文春文庫刊)

脚本 原田真人 Harada Masato

撮影 柴主高秀

美術 福澤勝広

衣裳 宮本まさ江

編集 原田遊人

キャスティング 杉野剛

音響効果 柴崎憲治

